

史跡巡拝 都城のかくれ念仏



① 薩州内場仏飯講 法物 安楽寺所蔵

親鸞聖人 大衆仏教のはじまり



宗祖 親鸞聖人
1173～1263

浄土真宗は、鎌倉時代の親鸞聖人によってひらかれました。

インド・中国・朝鮮半島をへて伝来した仏教は、自力聖道門と他力浄土門の二つに分けられます。

自力聖道門とは、人間がおのれの心・能力を出発点として、仏道修行につとめはげみ、ついには仏の悟りの高みまで登ろうとする仏教です。世俗を離れ妻子をもたず、あらゆる欲望を捨てていく出家者の仏教です。

親鸞聖人の浄土真宗は、一生涯三毒の煩惱（貪欲・瞋恚・愚痴）を離れては生きていけない一切の人々を無条件にそのままとめ、お救い下さる阿弥陀如来の本願を根本にします。親鸞聖人によって、老若男女、武士も農民も漁師も商人もすべての身分、すべての生活者に仏教の光があてられたのです。在家仏教といえます。それは、武士が政治の実権をにぎり、大衆が生き生きと生産活動を営む時代の潮流とも機を一にしていました。



本願寺第八代 蓮如上人
1415～1499

浄土真宗が九州へ伝えられたのは、本願寺第八代蓮如上人の時です。

四三才で本願寺宗主となった蓮如上人は、平座（ひらざ）の心で僧侶と門徒の上下の差をのぞき、「さあ物を申しなさい、遠慮なく語りましょう」と、人間はみな御同朋・御同行であるという親鸞聖人の教えを徹底しました。

門徒には「南無阿弥陀仏」の直筆の名号本尊を書きあたえ、浄土真宗の教えの肝要を「御文章」に書いて広めました。今日のダイレクトメールです。文明五（一四七三）年には、「正信念仏偈」を出版して、みなもろともに唱和する宗風を確立しました。民衆は文字を学び仏教を深く領解しました。蓮如上人が八五才で往生されるまでには、村ごと寺ごと浄土真宗に帰依するものもあらわれ、日本の三分の一の人口が浄土真宗になったのです。第十一代顕如上人の頃、本願寺は大阪の石山（現在の大阪城本丸）にあり、戦国諸大名からも帰依されておりましたが、織田信長はこの地を要求して十一年間におよぶ石山合戦になりました。本願寺に加勢する大名もあり、門徒も全国から駆けつけたので、信長を以てしても本願寺を滅ぼすことはできませんでした。

浄土真宗 念仏弾圧の理由

天文二四（一五五四）年、相良藩（人吉）相良晴広は相良家法度式目四十一ヶ条において、浄土真宗禁止令を發布。



島津藩主 島津義弘

慶長二（一五九七）年、島津藩（薩摩）島津義弘が島津家二十ヶ条で浄土真宗禁止令を發布しました。島津家が浄土真宗を嫌悪していた記録はこれ以前にも見られますが、条文化された禁止令はここに始まります。

なぜ、島津藩は浄土真宗を弾圧したのでしょうか。加賀の一向一揆を始め、松平家康を苦しめた三河の一向一揆、織田信長と十一年間戦った石山合戦をみて、本願寺の強大さと門徒の団結力の強さを知って恐れたからでしょう。

支配権力にとって領民は、絶対服従の無知文盲の農奴であるほうが都合なのですが、領民が自由・平等の教えにめざめ、文字を学び、「正信偈」や「御文章」を声高らかに読む姿に危機感と恐怖感をもったからでしょう。門徒たちは、藩の支配域をこえて本願寺とも全国の門徒ともつながっていました。しかも藩内の家臣団にも帰依者が広がっていったのです。

藩内の金銭が本願寺への懇志として大量に流れ出しているという経済的な理由がありました。島津藩は、宝暦四（一七五六）年、徳川幕府に命じられて木曾川・長良川・揖斐川の治水工事をしますが、度々の幕府の無理難題によって膨大な借金大国になっていました。奄美大島や徳之島の島民には稲作を禁止し、黒砂糖を収奪し、藩内の農民からも全国一高い

年貢を取り立てていました。

弾圧の目的と拷問

浄土真宗の門徒であることが発覚すると捕らえられて、石責め・逆さぶり・縄責め・轟責め・死罪など見せしめのための公開の拷問をされました。今も拷問のあった場所が、山之口町に残っています。

拷問の目的は、**①**宗替え（信仰を捨てること）の強要、**②**本尊や法物のかくし場所の自白の強要、**③**門徒組織の仲間の名前の密告の強要でした。

あまりにも非人間的な暴力に耐えられず、同行の名前や法物のかくし場所を言うかも知れないと覚悟した者は、捕縛されると仲間を守るためにみずから命を絶ちました。もし、拷問に耐えられずに宗替えを役人に誓っても、なお仲間を売りわたす密告者になることを強要したからです。



① 安楽寺 殉教之碑 拷問石

浄土真宗さつま開教 明治9（1876）年9月5日

山号・寺号	説教所創立	寺号公称	開基住職	出身地
三椏山 広濟寺	明治11年2月11日	明治18年9月22日	福沢哲明師	福岡県 照安寺
竜松山 慶正寺	明治9年11月7日	明治24年8月30日	小野普曜師	兵庫県 円竜寺
天竜山 攝護寺	明治9年11月1日	明治16年5月3日	佐々木雲嶺師	福岡県 妙円寺
清涼山 願心寺	明治11年8月20日	明治17年7月24日	大河内彰然師	兵庫県 願誓寺
無量山 安楽寺	清武町安楽寺より移転	安政3年8月26日	佐々木深隆師	清武町 安楽寺
佛教山 善長寺	明治13年4月10日	明治25年4月29日	教山照見師	兵庫県 安楽寺
榮松山 正定寺	明治14年5月29日	明治24年12月28日	尼子善念師	広島県 真徳寺
鳴峰山 善性寺	明治28年6月20日	明治34年9月10日	五條僧駿師	広島県 浄専寺
蓮正山 アソカ寺	昭和4年4月30日	昭和22年3月31日	中原蓮正師	攝護寺出張所

「捕縛と同時に無言のまま覚悟の自決」という文字が史料にも見られますのは、非道な権力の仕打ちを知り抜いた門徒の最後の抵抗だったのです。

門徒に対する過酷な弾圧の様子は、『薩摩国諸記』（薩摩門徒から本願寺への手紙）に記録されています。手紙では、「嚴重の糾明、前代未聞のふるまいにごさそうろう」と訴えています。

①石責め 門徒を割木の上に正座させ、膝内側に丸太をはさみ、膝上にあごの高さまで切り石を乗せてゆすり殴打した。

②逆さづり 両足の親指を細縄でしばって逆さに吊り下げて棒で打った。

③縄責め 女性を全裸にして後ろ手に縛り、三角木馬に座らせたり、杉木立に腰の高さに荒縄を張って、女性にまたがせ前後に歩かせてはずかしめた。

④轟責め（とどろげめ） 庄内町関之尾の滝つぼに男性を投げ込み、竹棒で突いては沈め、溺死させた。

⑤入牢監禁、死罪。士分の者は家禄身分の没収もあつた。

このような公開見せしめ拷問を役人たちは酒を飲みながら楽しんだと、古老たちは語っています。

人吉市には、密告されて、明朝には役人が家族全員を捕縛に来ると知った養蚕農家が、「自分自身への拷問なら耐えられるが、親の前で子や孫が責められるのは忍びがたい」と、夜の内に親子孫の一家十四人が身体を縄で結び合つて念仏とともに球磨川に入水心中をとげた「十四人淵」という史跡があり、当時の悲劇を物語っています。

門徒たちは、信仰の自由を求める以外は、年貢もおさめよくはたらく善良な領民だったので、島津藩を最下部で支える領民の家族愛や人間性までも踏みこむあつかいだつたのです。

念仏者の抵抗運動

門徒たちは三百年間の暗黒の時代をどのように耐えていったのでしょうか。抵抗運動といつても支配権力を倒すとか、暴力で復讐するという行動ではありませんでした。

門徒たちの抵抗運動は、どこまでも仏法本流の念仏者の人生を生き抜く、阿弥陀如来の本願にいつも呼ばれながらお浄土への人生をまっとうするという誇り高いものでした。農民は田畑で、木こりは山で、海辺の民は沖にこぎ出て船中で念仏をとえながら働きました。

①命がけの法灯護持 門徒たちは本願寺につらなる講組織を結成（薩摩七十余講）し、山中の洞窟にご本尊の阿弥陀如来を護持し、「正信念仏偈」をおつとめし、「御文章」を拝読して、仏縁にあえた人生を喜びました。苦難の中にも、御同行御同朋と身をよせあい助け合いました。

②命がけの藩外間法 若者たちは都城からは藩外の清武の寺へ、北薩の門徒は肥後藩の水俣の寺へ、山野を越えて間法に通いました。

③藩外への逃散 信仰の自由の地を求めて家族ごと村ごと清武へ脱出した「逃散」の記録もあります。清武町の尾平地区などがそうです。

④母たちの命がけの子育て一揆 宝暦四（一七五六）年の治水工事などで借金大国になった島津藩は、とうとう口減らしに、女の赤子の間引きを農



洞窟の中でのご法座

民に強要するまでになりました。

しかし、念仏の母たちは「そのことだけは断固承服なりもうさぬ」と、「赤子を殺すくらいなら我が身を殺せ」と、命がけで間引きを拒否しました。念仏者の村々は貧しくとも子供のにぎわいがあふれていました。明治の時代が来て、ハワイや海外にご本尊一つをもって、サトウキビ畑開墾の移民に行った人々は、この母たちの子孫だったのです。今でも母たちの念仏講が観音講（地区）、玉日講（地区）の名で残っています。

なぜ教えを捨てなかつたのか？

かくれ念仏の歴史を学んでいくと、「むごい拷問や死罪まで受けて、なぜ教えを捨てなかつたのか」という一つの疑問にぶつかります。

①かくれ念仏は、南九州の郷土史ですが、郷土史研究という視点では、決して歴史の本質にせまることはできません。三百年間もの間、支配者からの一方的な宗教弾圧を受けながら、非暴力で信心と講組織を守りとおした世界宗教史上にも唯一無二の歴史です。人間の生命の尊厳をかけた信仰運動でした。浄土真宗の正しい心理理解がなければ、かくれ念仏の偉業は理解できないことでしょう。

②「ほかの宗教に変わればよかつたではないか」という問いをもつその人自身の宗教観・人生観が、実は逆に問われているのです。

世界には、大きくわけて「神の宗教」と「仏の宗教」があります。「神の宗教」の代表はなんといつてもキリスト教とイスラム教です。

神は、「ゆるし」と「さばき」の二つの顔をもって人間に対峙しております。神は絶対のみずからすべてを人間に与えることはありません。人間の高さまでみずから降りてきて神自身を投げだすこともありませぬ。死んで天国に行ける保障も生きていく内にはもらえませぬ。安心がないのです。



安楽寺より269号線を都城方面へ300mに案内標識あり。標識左折して900mを

② 田島かくれ念仏洞

「仏の宗教」でも、自力聖道門の他宗派は、自力の修行をして善根功德を積み重ね、仏の悟りの五十二の階段を登らねばなりません。よわく、貧しく、おろかな人間のままと認めてはくれません。③ただ阿弥陀如来だけです。人間の過去世・現在世・未来世の三世の罪をみなゆるし、一人ひとりの人間のままと大いなる慈悲の心でつつんで、「そのままよい。わが名をととなえよ。わが救いのすべてを今あたえよう」とお誓い下さいました。われら人間は阿弥陀如来の御前ではじめて、喜びも悲しみも、おろかさもみにくさも皆さらけだして、人間に成ることができのです。「お念仏を捨てよ」といわれることは、「人間であること、自分が自分に成ることを捨てよ」というに等しいのです。人間に生まれた根本の意味を失うのです。親鸞聖人は、阿弥陀如来の極楽の功德が人生のただ中ではたらくお念仏を「万行円備の南無阿弥陀仏」と喜ばれました。魚は、海を捨てることはできません。鳥は、空を捨てることはできません。ひとたび本願念仏の真実にめざめた念仏者は、阿弥陀の海を泳ぐ魚です。赤子が無心のままに母にだかれて乳を飲むように、念仏者は無心のままに阿弥陀如来のみ手の真ん中にあります。本願のお乳を飲めば飲むほど、捨てられなかつたのです。

島津藩の浄土真宗（一向宗）に対する弾圧は、慶長二（一五九七）年二月、藩主・島津義弘が二度目の朝鮮出兵の際に出した二十ヶ条の置文で、「一向宗の事、先祖以来御禁制の儀に候の条、彼の宗体になり候者は曲事たるべき事」と記したことに始まります。

その後、寛永十二（一六五三）年、幕府が出したキリシタン改めにあわせ、全領民の宗旨改めを実施して一向宗の禁止に乗り出しました。また、明暦元（一六五五）年には宗体奉行、安政七（一八六〇）年には宗門改役、宗体座（のちの宗門改所）が設けられ、取り締まりが強化されました。

疑いをかけられたものへの拷問は激しく『薩摩国諸記』には、「割木の上に座しめ、膝上に五、六十斤の石を乗せ、左右より短棒にて打擲致し、皮肉破れ血流、脚骨碎」と、その激しさが記されています。

こうした厳しい弾圧のなかでも、ひそかに信仰は続けられていました。信者らは地域ごとに講を組織し、山の中や洞穴、船上などでひそかに法座を開きました。これを「かくれ念仏」と呼び、乙房町、高城町、山田町にもその跡地が残されています。

山之口町内には、荒平神社法座跡（川内大谷奥の山中）や、上森、木上、吹上、田原などにもかくれ念仏洞が在りましたが、原形をとどめているのは、この田島だけです。

田島念仏洞（新文）
念仏はいのちなり
念仏はまことなり
風吹き
涙あふる、
暗き世に
わが無碍光はされど
その力にては
消えざりき

④ 文殊の池



南方神社境内 都城市山之口町花木953番地間引きの赤子が捨てられた池。

③ 拷問・処刑場の跡



山之口町富吉小学校前の圓野神社（的野正八幡宮）境内が見せしめの拷問・処刑が行われた跡地。現地学習で説明する安楽寺前住職。

⑤

蓼池かくれ念仏洞



国道269号線三股町蓼池
交差点より山之口へ0.2km。
道路沿い右手。

「讚誓碑」

当地方は、藩主島津義弘以来三百年間、浄土真宗禁制であつて、もしこの法を犯したものは獄刑・流刑・死刑等の重いさだめでありましたが、吾等の祖先、福永庄蔵・原口與作・山中喜助・橋口条助・野崎喜助・福永直市・野崎助次郎・池畑甚左衛門・堂村勇助・南畑休右衛門・山中甚兵衛氏等は、法を犯してまでも清武村安楽寺住職佐々木大学（深道）師をおおぎ、諸所の関所を避け深山をめぐり往復して、命がけで聞法いたしました。人目をしのいで法座をひらくためには地下室を設けるなど、大変なご苦労があつたことを思うべきです。

明治九年には念仏解禁となりましたが、近来の青年たちの中にはだんだん信仰浮薄に流れ、ともすれば浄土真宗を去つて他宗に変わろうとするものさえあると聞きます。なんと嘆かわしいことでもあります。

よつて、吾等同志はあいはかつて、吾等の子孫に至るまで永遠に祖先の遺風を尊びその遺志にそうことを誓い、この碑を建立しました。

⑥

三左衛門 釋憲隆之碑



三股町文化会館前バス停
より南へ0.2km。今町方面
へ右折して0.2kmを左折。

島津藩では浄土真宗はきびしく取り締まられておりましたが、安永二（一七七三）年の頃になりましたと浄土真宗は年月をおうごとに繁昌していきつきました。勝岡郷蓼池村の藤左衛門は本願寺に御講の結成を願ひ出て、第十七代宗主法如上人より仏飯講の御名をたまわりました。

三左衛門は樺山河内村に生れ深く弥陀の本願を喜ぶ人でありました。三左衛門は寛政五（一七九三）年五月上旬、仏飯講総代として上京し、御講の御本尊・法物の下附を願ひでましたところ、同年五月二十四日、第十八代宗主文如上人より御本尊・阿弥陀如来絵像、御開山親鸞聖人ならびに蓮如上人の御影像、文如上人ならびに本如上人の御影像を仏飯講の法物として御下附いただきました。このとおといお導きにより藤左衛門と三左衛門はますます講の拡張に力を尽しました。

寛政十（一七九八）年の頃には念仏の同行は、曾於郡・西諸郡地方にも拡大し、講員数千名になつたとの記録が残っています。それ以来、幾多の世相の変遷はありましたが、念仏禁制三百年をへて、仏飯講の御名は今日に伝えられております。鹿兒島宮崎両県にわたる今の仏飯講がこれであります。仏法繁昌山林購入碑にも注目しましょう。

⑦

中山小次郎殉教之碑



県道42号（高崎～野尻）
線、善長寺より野尻方面
へ1.6km。江平炭床墓地内

高崎村上江平寺の小次郎は焼香講の世話役で献上金を持つてたびたび決死の本山まいりをし、講内の同行に法話をとき聞かすほどの篤信者でした。役人の取調べにしばしばあい、方々へたくみにげ廻りつていきましたが、嘉永六（一八五三）年上京の途中、筑後の松崎で召捕られ四九歳の中老の身に縄をかけ連れ戻され、鹿兒島の牢獄で八年の囚人生活を送らねばなりません。しかしどのような責め苦にあおうとも同行を密告することなく堪え忍びました。桜島の噴煙の北になびくの獄窓から眺めて郷里の家族が思い出され胸をしめつけられる思いでしたが、法蔵菩薩の五劫の難行苦行を思へば何であらうと歯を食縛つて耐えた甲斐あつて、八年の刑期もおわり、再び郷里に帰ることが出来ました。小次郎は、明治四年六七歳で報恩の生涯を閉じました。

小次郎の八年間の忍耐のお陰で、江平炭床の同行は捕縛・拷問を逃れることができました。明治四年九月二五日、本山より院号が「護城院釋彰影」下附されました。

この殉教碑は、小次郎のご恩を末代に伝えるために、昭和四一年四月建立されました。

殉教僧 乗海寺釋無涯之墓



正定寺境内
山田総合支所より100m



日向国内場仏飯講が、本願寺第19代本如上人より賜った「親鸞聖人伝絵 文政2（1819）年7月25日 釋本如 花押」の署名がある。天保（1830年～1843年）の大弾圧（藩内で本尊二千幅押収）でも押収をのがれた法物です。正定寺所蔵

安政年間（一八五四～五九）、念仏禁制下の薩摩の信者へ秘密布教をするよう、本願寺第二十代広如上人の前に召し出された三人の青年僧侶がありました。いずれも屈強の若者で、どのような苦難にもたえうる選びぬかれた者たちでした。その一人が山陰山陽の守護代・尼子氏の流れをくむ了随でした。了随は、安芸国高田郡長田村にある真徳寺第十三世住職貫丈の次男です。

了随が、「乗海寺釈無涯」と名のつたのは薩摩入国以前のことであり、広如上人からたまわった法名です。万一発覚の場合、本願寺への難をさけるため、架空の寺号法名を名のり、生家の戸籍も抹消して薩摩の追求にそなえました。

無涯が薩摩に潜入したのは、安政元年九月下旬、まず足跡をくらすために大分の日田にしばらく布教し、熊本を回って薩摩川内地方に入り布教をつづけました。無涯の使僧としての任務は、七年後（一八六一）にお迎えする親鸞聖人六百回大遠忌の御消息披露、本願寺阿弥陀堂・御影堂修復の協力要請、そして椎茸講・仏飯講・焼香講・煙草講など薩摩北部の門徒の教導でした。無涯のゆくところ日に日に地下布教線はのびていきました。

伝道にあけて安政四年春をむかえた頃、薩摩藩兵の追跡から日向国に逃れようとする途中、加治木あたりで二人の使僧の殉難の知らせを聞きました。身辺に危険の迫ったことを感じた無涯は、飢肥領清武にのがれ、ついで天領であった本庄の宗久寺を頼って潜伏しました。

当時、日向諸県の信者たちは野尻を山越えして本庄の宗久寺や柏田の直純寺に、鶴戸山参りをよそおって参詣し、本願寺との連絡をたもっていました。宗久寺や直純寺は、本願寺への取り次ぎ寺であり、本庄は幕府直轄領であるし、一難去ったと安心していると、密告する者があって、高岡にあった薩摩藩の役所から数十名の捕り手が宗久寺を三重にとりかこみ、無涯の身柄引渡しを要求してきました。

宗久寺第七代・黒木遠慶師は無涯の危急を救うために奔走され、無涯は日田から直接宗久寺へ来た客僧であると弁明し、日田からの使者が着くまで期日猶予を願ひ出ました。しかし、猶予期日にその使者は間に合わず、使者が着いたときはすでに、無涯は本願寺や周辺の信者に難が及ぶことをさけるために、広如上人御消息、定紋の衣一領、白銀二十枚を焼却して、宗久寺倉庫の長ひつの中で覚悟の自決をしていました。安政四（一八五七）年五月五日端午の節句、行年三十三才でした。

無涯の殉難は、十四万余の犠牲者を出したという念仏禁制の法難の中で数少ない潜入僧の殉教でした。後に本願寺は「無涯なるもの存在せず」と懸命にもみ消しをはかりました。

明治二十（一八八七）年、無涯三十回忌法要のため宗久寺に滞在布教した尼子善念は、第十四世惠燈の娘婿に当たり、真徳寺第十五世住職でしたが、無涯の血縁と法縁によって、正定寺の開基住職に迎えられました。



ネパール国カトマンズ本願寺「乗海寺釋無涯舍利塔」。かくれ念仏の偉業を世界に伝えるため、カトマンズ本願寺建立発起人・向坊弘道氏の悲願により2006年11月8日分骨。

⑨ 直右衛門法難之記念碑



当地の仏飯講は寛政五年（一七九三）年に結成され二百年近い歴史を持っています。寛政十年には一番組・二番組・三番組の区分が出来ました。一番組は野尻・高原・高崎方面、二番組は末吉・三股・山之口地域、三番組は始良郡の福山・嘉例川・肝属郡の牛根・曾於郡の岩川・末吉の一部・財部の地域をもって組織されていました。

島津藩では信者検挙のために宗門改めや信者でない事を証明する証文を提出させていました。また、信者の検挙は老獺且つ冷酷なものでしたので法網をくぐることは至難でした。三番組の御講総代末吉郷徳牟礼門直右衛門は、天保六（一八三五）年頃より布教のため大隅・日向をまわり、仏法弘道に寝食を忘れ日夜尽力し、そのために藩吏のねらうところとなりました。捜査の目は日々厳しくなり、天保一二（一八四一）年一番組の野尻から信者が訪ねてきて、ここには危ないと言うので、二人は日向を経て豊後（大分県）に逃亡することにになりました。都城を過ぎ大淀川の上流縄瀬の渡し場に来て渡し舟に乗りうとしたとき、後の方で「直右衛門どん」と親しく呼びかける者があ

るので何の気なしに振り向いて捕吏に捕らえられました。直右衛門はこんな事もあるうかとあろうかと予め生齒を全部抜いて面相を変えていたので人違いという事でその時は釈放されましたが、不運にも再び捕縛されて、毎日蓮如上人直筆の名号と御肖像の在りかを強く追求されました。翌十三年には身柄を都城会所（今の警察の役目をする所）に移され、連日連夜冷酷極まる拷問が続けられたので「今はもうこれまで」と悟り、役人が居眠りをしている隙をうかがい、脇差を抜き取って切腹自刃し、牢中にて四月二三日、四四歳の若さで最期を遂げました。今日、我等が御肖像様を拝したてまつるのは、直右衛門が身命を賭して同行と法物を守り抜いた尊い犠牲によるものです。記念碑の「法名 積雲道」は本願寺から御下附になったものであります。

となりには、親鸞聖人七百回大遠忌（一九六一）を記念して仏法興隆のため山林購入記念碑あり。



記念碑は、国道10号線を末吉町深川交差点より鹿児島方面へ1.8km。右手の徳留入口バス停の横。
直右衛門の墓は、記念碑から高之峯公園の方向へ0.4km「新原鶴木→」の道標を右折して1km。観音堂すぎて左手坂上。

⑩ 平田かくれ念仏洞



都城～山田線の乙房交差点より庄内方面へ2.9km 上平田地区で左折して0.3kmの右手。

史跡めぐりのおぼろい

安楽寺の大学さん・蓼池の藤左衛門さん
樺山の三左衛門さん・江平の小次郎さん
正定寺の無涯さん・末吉の直右衛門さん
野尻の幸侃さん・忠貞さん……
そして、われらの血の中に生きている親
たちの声を聞きに、都城のかくれ念仏の
史跡をめぐってみませんか。

- ⑫ 田辺かくれ念仏洞 高城町有水
- ⑬ 轟かくれ念仏洞跡 高崎町（ダムに水没）
- ⑭ 平山かくれ念仏洞跡 山田町平山
- ⑮ 内場仏飯講記念碑 山田町脇之馬場

小林市・えびの市、鹿児島県、熊本県人吉地方にも多数の史跡があります。インターネットでも「かくれ念仏」の史跡・記事・文献を調べることができます。

伊集院忠貞供養塔



本町麓東町野尻市小林
い沿線862号国道
横の病院中央野尻

翌年、戦いが不利となった忠貞は、徳川家康の仲介で和睦を受け入れ、頼娃一万石を経て帖佐二万石に移されましたが、主家からの警戒の目はゆるんではいけませんでした。
慶長七（一六〇二）年、島津忠恒は徳川家康に面会するため上洛するにあたり忠貞にも同道を命じます。そして上洛途中に野尻に滞在した忠恒は、八月十七日、鹿狩りを行った際に忠貞を家臣もろともに殺害しました。この供養塔（五輪塔）は、非業の死を遂げた忠貞の供養のため建立されたものです。

念仏者 伊集院幸侃

島津藩の筆頭家老であった伊集院忠棟（釋幸侃）は浄土真宗本願寺にふかく帰依して、門主に当時本山に四体あった「親鸞聖人ご真影」のお木像の一体を都城にご安置して朝夕お参りしたいと願っていますが、寺宝を門外に出すわけにはいかないと断られます。幸侃は「ならばここで今腹を切ります」とせまり、とうとうご真影一体は、都城に移りました。伊集院家の家臣団も主人に従って念仏者になりました。伊集院家の家臣団の念仏者残党狩りの意図があつたこともうかがわれます。

伊集院源次郎忠貞は、島津家の家老、伊集院忠棟（浄土真宗の法名釋幸侃）の嫡男です。伊集院忠棟は、島津氏の筆頭家老であり、島津氏の九州制覇のため活躍した功臣でした。天正十五（一五八七）年、豊臣秀吉の九州征伐の際には、豊臣氏と島津氏の兵力の違いを認識し、命を賭して主君を諫め早期降伏を主張しました。降伏後は自ら人質となり上洛し戦後処理にあたり、島津氏の存続に貢献したため、島津家の代表的家臣と認められ、戦後処分でも秀吉から直接肝付一郡を拝領しました。文禄四（一五九五）年には、忠棟は秀吉の命により鹿屋二万石移って都城八万石の領主となりました。島津氏の家臣でありながら大名と同格の扱いを受けたことになりました。この出来事が、はじめから忠棟は秀吉に内通していたのではないかと主家から疑いをかけられること発展します。
慶長四（一五九九）年、忠棟は、主家・島津忠恒（家久）に、京都伏見の薩摩屋敷の茶室に呼び出され、主家乗っ取りの嫌疑で謀殺されました。都城を守っていた忠貞は、この事件を知り主家島津氏に反旗を翻し一戦を交えることになりました。 「都城の乱」（庄内の乱）です。



ゆづり木のお像。伊集院幸侃がより伊集院親鸞より受けた。現在、八代市正教寺所蔵

浄土真宗のさつま開教

明治九（一八七六）年九月五日、鹿児島県参事田畑常秋からの一通の通達によって、かくれ念仏の弾圧の時代は終わりました。「各宗旨の儀は、今日からは人民各自の信仰に任せることを布達する」というわずか一行の文書でした。この日から浄土真宗本願寺派の僧侶と薩摩都城門徒が一体となった寺院建立が始まりました。

かくれ念仏の炎 未来へ

明治九年をもって、



かくれ念仏の物語が終わったわけではありません。①三百年間非暴力で守りとおした南九州の念仏者の偉業を世界中に伝えたいと、お釈迦様が生誕されたネパール国の首都には、カトマンズ本願寺が二〇〇六年に建立されました。②本願寺ハワイ教団では、信仰の自由の地を求めて北薩から八代に逃れた人々の子孫が活躍しておられます。

③「念仏の声を世界に子や孫に」の願いのうねりは今も続いているのです。この南九州の大地の声が、あなたにも聞こえますか。

浄土真宗本願寺派 都城組

- 広濟寺（三股町）・慶正寺（高城町）・攝護寺（牟田町）・願心寺（庄内町）・安樂寺（山之口町）・正定寺（山田町）・善長寺・善性寺（高崎町）・アソカ寺（小松原町）